履歴ならびに研究業績

氏名　　桜井 哲夫（さくらい てつお）

1949 年 11 月 4 日，栃木県足利市に生まれる。

【略歴】

〈学歴〉

1968 年　3 月　栃木県立足利高等学校卒業

1973 年　3 月　東京外国語大学外国語学部フランス語科卒業〔文学士〕

1975 年　3 月　東京大学大学院社会学研究科国際関係論修士課程修了〔国際学修士〕

1979 年　3 月　東京大学大学院社会学研究科国際関係論博士課程単位取得満期退学

〈職歴〉

1979 年　4 月　広島大学総合科学部ヨーロッパ研究講座助手（～1981. 3）

1981 年　4 月　東京経済大学経済学部専任講師（～1982. 3）

1982 年　4 月　同 経済学部助教授（～1991. 3）

1988 年　4 月　国外研究委員

フランス国立社会科学高等研究院・客員研究員（～1989. 3）

1991 年　4 月　同 経済学部教授（～1995. 3）

1995 年　4 月　同 コミュニケーション学部教授

1996 年　4 月　同 研究委員長（～1998. 3）

1998 年　7 月　同 研究所設立構想検討委員会委員長

1999 年 11 月　同 学術研究センター開設準備委員会委員長（～2000. 5）

2000 年 11 月　同 コミュニケーション学部長（～2001. 3）

学校法人東京経済大学 理事・評議員（～2001. 3）

2005 年　4 月　東京経済大学メディア委員会委員長（～2006. 3）

2005 年　5 月　同 知的財産権検討プロジェクトチーム委員長（～2006. 3）

2006 年　4 月　同 国内研究員（～2007. 3）

2018 年　4 月　東京経済大学名誉教授

〈学外の職歴等〉

1989 年　4 月　財団法人大学セミナーハウス共同セミナー委員会副委員長（～1996. 3）

1990 年　4 月　東京大学教養学部非常勤講師（～1992. 3）

1996 年　4 月　早稲田大学法学部非常勤講師（～1997. 3）
1996 年　4 月　朝日新聞社・書評委員（～1998. 3）
1996 年 12 月　共同通信社・論壇時評（「展望 ‘97」担当者～1997. 11）
1999 年　4 月　早稲田大学法学部非常勤講師（～2001. 3）
2002 年　5 月　宗教法人真教寺代表役員・宗教法人養念寺代表役員（現在に至る）
2014 年　2 月　学校法人足利工業大学（現・足利大学）理事（現在に至る）

【所属学会】
日本社会学会，社会思想史学会，日仏歴史学会

研究業績

（1）著書（単著）

1、『知識人の運命―主体の再生に向けて』，三一書房，1983 年 2 月刊
2、『「近代」の意味　―制度としての学校・工場』，日本放送出版協会，1984 年 12 月
3、『ことばを失った若者たち』，講談社，1985 年 9 月
4、『家族のミトロジー』，新曜社，1986 年 10 月
5、『思想としての 60 年代』，講談社，1988 年 6 月
6、『サン・イヴ街からの眺め―フランス社会ウォッチング』，岩波書店，1989 年 12 月
7、『手塚治虫　―時代と切り結ぶ表現者』，講談社，1990 年 6 月
8、『メシアニズムの終焉　―社会主義とは何であったのか』，筑摩書房，1991 年 12 月
9、『ボーダーレス化社会　―ことばが失われたあとで』，新曜社，1992 年 11 月
10、『思想としての 60 年代』増補版（ちくま学芸文庫），筑摩書房，1993 年 2 月
11、『サン・イヴ街からの眺め　―フランスの社会と文化』増補版（ちくま学芸文庫），1993 年 11 月
12、『可能性としての「戦後」』，講談社，1994 年 2 月
13、『TV　―魔法のメディア』，筑摩書房，1994 年 11 月
14、『フーコー　―知と権力』，講談社，1996 年 6 月
15、『「社会主義」の終焉　―マルクス主義と現代』，講談社学術文庫，1997 年 8 月
16、『不良少年』，筑摩書房，1997 年 10 月
17、『「自己責任」とは何か』，講談社，1998 年 5 月
18、『戦争の世紀　―第一次世界大戦と精神の危機』，平凡社，1999 年 11 月
19、『知の教科書　フーコー』，講談社，2001 年 5 月
20、『福柯』，河北教育出版社，2001 年 11 月（『フーコー　知と権力』の中国語版）

21、『アメリカはなぜ嫌われるのか』，筑摩書房，2002 年 3 月
22、『フーコー　―知と権力』新装セレクト版，講談社，2003 年 6 月
23、『戦間期の思想家たち　―レヴィ＝ストロース・ブルトン・バタイユ』，平凡社，2004 年 3 月
24、『占領下パリの思想家たち　―収容所と亡命の時代』，平凡社，2007 年 1 月
25、『増補　可能性としての「戦後」』（平凡社ライブラリー），平凡社，2007 年 4 月
26、『今村仁司の社会哲学・入門　―目覚めるために』，講談社，2011 年 7 月
27、『一遍と時衆の謎　―時宗史を読み解く』，平凡社，2014 年 9 月
28、『廃墟の残響　～戦後漫画の原像』，NTT 出版，2015 年 3 月
29、『一遍　捨聖の思想』，平凡社，2017 年 8 月

（2）共著

1、三省堂編集部編『世代の考現学』，三省堂，1993 年
2、「This is 読売」編集部編『20 世紀日記抄』，博文館新社，1999 年
3、栗坪良樹，柘植光彦編『村上春樹スタディーズ　03』若草書房，1999 年
4、栗坪良樹，柘植光彦編『村上春樹スタディーズ　05』若草書房，1999 年
5、Gordon Mathews, Bruce White（edited by），Japan's Changing Generations: Are young people creating a new society？　London, Routledge, 2003（担当箇所は，part1, chap. 1 The generation gap in Japanese society since the 1960s（pp. 15–30）Paperback edition, 2006
6、『入門講座デジタルネットワーク社会』（大榎淳，北山聡との共著），平凡社，2005 年 1 月
7、朝日新聞社編『一語一会』，亜紀書房，2005 年 5 月
8、Philip Brophy（ed.），TEZUKA Marbel of Manga, the Council of Trustees of the National Gallery of Victoria, Melbourne, Australia, 2006（分担箇所は，Tetsuo Sakurai, Tezuka –An Artist who confronted His Era, pp. 67–76）
9、ゴードン・マシューズ，ブルース・ホワイト編『若者は日本を変えるか　―世代間断絶の社会学』小谷敏監訳，川畑博臣訳，世界思想社，2010 年 4 月（5 の日本語版）

（3）翻訳

1、ジャン＝フランソワ・リオタール「頽廃と少数派の闘争」『エピステーメー』（朝日出版社），1978 年 1 月号（1977 年 12 月）
2、ジャン・ボードリヤール『記号の経済学批判』（今村仁司，宇波彰と共訳），法政大学出版局，1982 年 12 月

3、ロジェ・ケンプ『ダンディ　―ある男たちの美学』，講談社，1989 年 11 月
4、マーティン・ジェイ『マルクス主義と全体性』（今村仁司らと共訳）国文社，1993 年 6 月

(4) 論文（主要なもの）

1、「フランスにおける植民地帝国主義と民主制　1880-1914」，『歴史学研究別冊特集：歴史における民族の形成』1975 年，青木書店
2、「民主主義と公教育」『思想』618 号，1975 年，岩波書店
3、「デモクラシーとテクノクラシー」『思想』629 号，1976 年，岩波書店
4、「知識人の社会主義」『現代思想』8 月号，1978 年，青土社
5、「『獄中ノート』の思想　―グラムシ理論の再構成のために」
『社会思想史研究』（社会思想史学会），1978 年，ミネルヴァ書房
6、「挙国一致の構造」『思想』673 号，1980 年，岩波書店
7、「知の位階制　―文化ブルジョワジーの勃興」『中央公論』2 月号，1981 年，中央公論社
8、「戦後知識人の解体」『中央公論』11 月号，1981 年，中央公論社
9、「ダニエル・ベル　―遅れてきたメンシェヴィキ」『現代思想』8 月号，1982 年，青土社
10、「青年文化の変容をめぐって　―東経大生の文化環境調査から」
『東京経大学会誌』（東京経済大学）第 127 号，1982 年 9 月
11、「《制度》としての母　―母性イデオロギー批判のため」『現代思想』8 月号，1983 年，青土社
12、「《思い入れ》からの逃走」『中央公論』9 月号，1983 年，中央公論社
13、「家族の三角形」『中央公論』5 月号，1984 年，中央公論社
14、「近代家族のなかの《青年》」『現代思想』6 月号，1985 年，青土社
15、「教育　―《従順な身体》の形成」『現代思想』11 月号，1985 年，青土社
16、「《家》とその変容　―アジールの解体をめぐって」『青年心理』63 号，1987 年，金子書房
17、「閉ざされた殻から姿をあらわして　―『ノルウェーの森』とベストセラーの構造」
『ユリイカ』6 月臨時増刊号，1989 年，青土社
18、「《水》の近代」『へるめす』25 号，1990 年，岩波書店
19、「眠らない都市の誕生」『東京人』8 月号，1990 年，東京都文化振興会
20、「かつて人は家で生まれて家で死んだ」『サンサーラ』第 2 巻 3 号 1991 年，徳間書店
21、「視覚文化とことばの変容」『言語』第 20 巻 2 号，1991 年，大修館書店
22、「公と私について」『MAYDAN』25 号，1992 年，国際大学
23、「幻想のフランス，幻想の日本」『ぶっくれっと』第 99 号，1992 年三省堂書店
24、「知識人論の現在」『へるめす』41 号，1993 年，岩波書店

25、「メディア環境論」『コミュニケーション科学』第 1 号，1994 年，東京経済大学
26、「近代的学校制度の成立」，『教員養成セミナー』第 17 巻 6 号，1995 年，時事通信社
27、「『技術のひと』としての司馬遼太郎」，『大航海』第 13 号，1996 年
28、「《問題》としての若者」『Aera mook 社会学がわかる』，1996 年，朝日新聞社
29、「戦中から戦後へ　―フランスの場合」『現代思想』7 月号，1996 年，青土社
30、「20 世紀日記抄　―古川ロッパ『昭和日記』」，『THIS IS 読売』9 月号，1996 年，読売新聞社
31、「フーコーとフランクフルト学派」『現代思想』3 月号，1997 年，青土社
32、「社会主義の時代」，『世界臨時増刊・世界を読むキーワード』，1997 年，岩波書店
33、「戦争」，『別冊・世界』第 675 号，2000 年，岩波書店
34、「速度のなかの文化　―90 年代の意味」『大航海』35 号，2000 年，新書館
35、「日本と西洋における『公共』の概念について」『公共建築』167 号，2001 年，公共建築協会
36、「『つながる』ことの意味するもの」『希望を組織する　―2001 年度学会誌』，2002 年，日本ボランティア学会
37、「アメリカ合衆国は『帝国』なのか」，『熱風』2004 年 1 月号（vol. 2, no. 1），株式会社徳間書店スタジオジブリ事業本部，2004 年 1 月
38、「若者とコミュニケーション」『Aera Mook 新版　社会学がわかる』，朝日新聞，2004 年 2 月
39、「自己責任という妖怪」『月刊百科』第 501 号，2004 年 7 月号，平凡社
40、「戦後少年文化のなかの乱歩」『「国文学解釈と鑑賞」別冊・江戸川乱歩と大衆の 20 世紀』至文堂，2004 年 8 月
41、「パブリックとプライベート　―『公』と『私』の境界が曖昧な国日本」『人間会議』2006 年夏号，株式会社宣伝会議
42、「思想史のなかのブッシュ体制」，『論座』2007 年 5 月号，朝日新聞社刊
43、「今村『労働論』の今日的意味」，『東京経大学会誌　―経済学』NO. 259，東京経済大学経済学会，2008 年 4 月刊
44、「『人への温かな関心』を阻む社会のルーツ　―他人への無関心・不信はどこから生まれたのか」，『児童心理』2009 年 7 月号（NO. 898），金子書房
45、「100 年の世相を読む」（講談社編『暮らしの年表／流行語 100 年』講談社，2011 年 5 月所収）
46、「第二次大戦後における『一遍上人』像（イメージ）の変遷」，『一遍教学の総合的研究報告書』（時宗教学研究所刊，2011 年 9 月）
47、「今，若者について語るということ」，『myb（みやびブックレット）』第 40 号，みやび

出版，2012 年 5 月

48、「私にとっての戦後～何を守るべきか」『myb』新装第 2 号，みやび出版，2015 年 10 月

49、「捨聖・一遍」，『学鐙』2017 年秋号（vol. 114, no. 3），丸善出版，2017 年 9 月

50、「平成の終わりにあたって　～『自己責任論』以後の二十年」，『myb』新装第 5 号，みやび出版，2018 年 4 月

(5) 事典・辞典項目執筆

1、今村仁司編『現代思想を読む事典』講談社，1988 年

項目担当執筆・18 項目

「アイデンティティ」「家族」「学校化」「近代化」「群衆」「権威」「国民国家」「自発的服従」「社会化」「社会的事実」「人種差別」「スティグマ」「青年文化」「大衆社会」「中心と周縁」「テクノクラシー」「パノプティコン」「レイベリング理論」

人名項目担当執筆・12 名

「ヴェブレン」「エリクソン」「オルテガ・イ・ガセット」「グラムシ」「ソレル」「タルド」「デュルケム」「テーラー」「ド・マン」「ピアジェ」「ベル」「マルクーゼ」

2、木田元ほか編『コンサイス 20 世紀思想事典』，三省堂，1989 年

担当執筆：「ダンディズム」，「工場」

3、『戦後史事典』，三省堂，1991 年

担当執筆：「中間文化」，「女子学生亡国論」

4、今村仁司編『現代思想ピープル 101』，新書館，1994 年

担当執筆：「ピエール・ブルデュー」，「レーニン」

5、鶴見俊輔ほか編『民間学事典・人名編』，三省堂，1997 年

担当執筆：「花森安治」

6、見田宗介ほか編『社会学文献事典』，弘文堂，1998 年

「桜井哲夫著『「近代」の意味』解説」執筆（自著解説）

7、坂部恵ほか編『フランス哲学・思想事典』，弘文堂，1999 年

担当執筆：「オーギュスト・ブランキ」「ジョルジュ・ソレル」

8、臼井勝美ほか編『日本近現代人名辞典』，吉川弘文館，2001 年

担当執筆：「長谷川町子」，「田河水泡」

9、今村仁司・三島憲一・川崎修編『岩波社会思想事典』，岩波書店，2008 年

以下 19 項目担当執筆

「アンガージュマン」「解放の神学」「学校」「グラムシ」「刑罰」「言説（ディスクール）」「構造主義」「進歩」「大衆」「脱構築」「パーリア」「ファシズム」「フーコー」「ヘゲモニー」「ポストコロニアリズム」「マイノリティ」「メディア論」「友愛」「連帯」

10、東京経済大学コミュニケーション学部編『コミュニケーション学がわかるブックガイド』NTT 出版，2014 年 2 月，以下 6 項目の著作解説担当。
ローレンス・レッシグ「CODE VERSION2.0」マイケル・ポランニー「暗黙知の次元」ガブリエル・タルド「模倣の法則」ソースティン・ヴェブレン「有閑階級の理論」エドガール・モラン「オルレアンのうわさ」

11、共同通信文化部編『書評大全』，三省堂，2015 年 4 月。
共同通信配信 7 本の書評掲載。
「現代語訳　清沢満之語録」（今村仁司編訳）（岩波現代文庫）
「遅刻の誕生」（橋本毅彦・栗山茂久編著）（三元社）
「御三家歌謡映画の黄金時代」（藤井淑禎著）（平凡社新書）
「マーティン・ドレスラーの夢」（スティーヴン・ミルハウザー著）（白水社）
「サザエさんの〈昭和〉」（鶴見俊輔，齋藤愼爾編）（柏書房）
「興亡の世界史 19　空の帝国　アメリカの 20 世紀」（生井英考著）（講談社）
「憧れのブロンディ」（岩本茂樹著）（新曜社）

12、共同通信文化部編『追悼文大全』2016 年 4 月。共同通信配信追悼文 1 本
「『一人でいる自由』貫く　原節子が表現したもの」

13、社会思想史学会編『社会思想史事典』丸善出版，2019 年 1 月
担当項目：「大衆（群衆）・群衆心理学」「ジャーナリズム」

（6）新聞への寄稿・エッセイ（インタヴューは除く）

1、「悪意をほろぼした羊」『毎日新聞』1983 年 6 月 10 日夕刊
2、「シミュレーションの世界」『東京新聞』1984 年 2 月 7 日夕刊
3、「なれなれしさという暴力」『毎日新聞』1984 年 4 月 23 日夕刊
4、「懐古趣味の迷路」『毎日新聞』1985 年 4 月 13 日夕刊
5、「『いじめ』の意味するもの」『読売新聞』1985 年 11 月 5 日夕刊
6、「論壇回顧」『毎日新聞』1985 年 12 月 18 日夕刊
7、「映像麻薬常用者の欲望」『読売新聞』1986 年 12 月 12 日夕刊
8、「《住む》ということ」『毎日新聞』1988 年 1 月 16 日夕刊
9、「'89 ことばの風景　―大学のキャンパスで」『毎日新聞』1989 年 6 月 2 日
10、「日本の新聞に欠けているもの」『毎日新聞』1989 年 10 月 13 日夕刊
11、「《知識の専制》の終わり」『毎日新聞』1990 年 5 月 11 日夕刊
12、「しごとの周辺」連載（8 回）『朝日新聞』1990 年 7 月～8 月・夕刊
「テレビ局の日本」（7 月 23 日）「バルトの日本」（7 月 24 日）
「コジェーヴの日本」（7 月 25 日）「あたしの外部」（7 月 26 日）

「ヒューマニズム」(7 月 30 日)「グリンゴ」(7 月 31 日)

「ドラマ」(8 月 1 日)「マンガ世代」(8 月 2 日)

13、「私の新古典・0 マン」『毎日新聞』1990 年 10 月 22 日夕刊

14、「今，なぜ『スーダラ伝説』なのか」『産経新聞』1991 年 2 月 13 日夕刊

15、「セラピー宗教の時代」『毎日新聞』1991 年 8 月 20 日夕刊

16、「『磯野家の謎』の謎」『読売新聞』1993 年 3 月 1 日

17、「点検・細川退陣（上)」『信濃毎日新聞』（共同通信配信）1994 年 4 月 14 日ほか

18、「市場を疑う　②戦後の原点からの問い」『毎日新聞』1994 年 8 月 9 日夕刊

19、「書物の森を散歩する（上）（下)」

『東京新聞』1995 年 7 月 27 日夕刊，1995 年 8 月 3 日夕刊

20、「《やさしさ》のむこう」『毎日新聞』1996 年 1 月 10 日

21、「藤子・F・不二雄氏を悼む」『信濃毎日新聞』1996 年 9 月 26 日ほか（共同通信配信記事)

22、共同通信配信論壇時評「展望 '97」『京都新聞』ほか 40 地方紙配信，1996 年 12 月下旬より 1997 年 12 月初めまで毎月一回

「自己本位を考えよう　―対立存在失った無残さ」

「公共の利益とは何か」

「たまごっちと歴史観論争」

「伊良部騒動と日本の閉鎖性」

「倫理的基盤再生のために」

「ペルーと沖縄」

「在日問題と香港返還」

「居場所失った少年たち」

「酒鬼薔薇の背景」

「医療保険制度の改正」

「近代とリベラリズム終焉」

「サッカーと行革」

23、「《悔恨の日々》への励まし」『毎日新聞』1997 年 3 月 17 日夕刊

24、「戦後史の中の黒澤映画」『信濃毎日新聞』1998 年 9 月 8 日ほか（共同通信配信記事)

25、「国家とグローバリズム　―同感なき世界市場」『毎日新聞』1998 年 10 月 13 日夕刊

26、「今を読み解く　―『和』の原理の深層」『日本経済新聞』1999 年 8 月 15 日朝刊

27、「新しい共同体は可能か（上）―国民という幻想」

「新しい共同体は可能か（中）―グローバリズムと向き合う」

「新しい共同体は可能か（下）―寂しさを超えて」

『中日新聞』1999 年 12 月 6 日～8 日夕刊，『東京新聞』12 月 7 日～9 日夕刊

28、「私が愛した名探偵　―新宿鮫」『朝日新聞』1999 年 12 月 13 日夕刊

29、「スヌーピーとチャーリー・ブラウン　―変わらなかった子どもの世界」『京都新聞』2000 年 2 月 26 日ほか（共同通信配信記事）

30、「世相ひとひねり」連載（13 回）『日本経済新聞』毎週 1 回連載

「ナカタを評価できるか」2000 年 5 月 2 日付け

「横町のご隠居」	5 月　9 日
「無明の闇」	5 月 16 日
「爆発するロボット」	5 月 23 日
「根っこにあるもの」	5 月 30 日
「身体化する携帯電話」	6 月　6 日
「チャンバラのはやるわけ」	6 月 13 日
「選挙とメディア」	6 月 20 日
「男性優位社会の中の女性」	6 月 27 日
「確かに便利，だが」	7 月　4 日
「達成感と自由な時間」	7 月 11 日
「がんばれ路面電車」	7 月 18 日
「現場の哲学」	7 月 25 日

31、「地域から日本あぶりだす　―杉浦明平さんが描いた政治風土」

『朝日新聞』（名古屋本社版）2001 年 3 月 21 日夕刊

32、「かつてなく高まる孤立感」『毎日新聞』2001 年 7 月 2 日夕刊

33、「一語一会　～青春永遠に去らずとは切ない話である」『朝日新聞』2001 年 7 月 25 日夕刊

34、「強まる適応原理，社会変動の予感　―グローバリゼーションの光と影

第 4 部アメリカという存在③」『毎日新聞』2002 年 11 月 25 日夕刊

35、「フセイン元大統領の拘束」『信濃毎日新聞』『神戸新聞』2003 年 12 月 18 日他（共同通信配信）

36、「シリーズ現在への問い　第一部　平和のつくり方　6　なぜ中国と北朝鮮で「共産主義」が続くのか？」『毎日新聞』2004 年 11 月 15 日夕刊

37、「『靖国問題』を読み解く（上）（下）」『東京新聞』2005 年 7 月 13 日夕刊，14 日夕刊

38、「21 世紀を読む　　スターリン批判 50 年　―反体制の多様化促す」『毎日新聞』2006 年 2 月 19 日（日）朝刊

39、「今を読み解く―問われる TV の位置づけ」『日本経済新聞』2008 年 8 月 17 日朝刊

40、「今を読み解く―60 年代への関心高まる」『日本経済新聞』2012 年 6 月 3 日朝刊

41、「『一人でいる自由』貫く―追悼原節子さん」
『西日本新聞』2015 年 11 月 27 日夕刊，『山形新聞』11 月 27 日夕刊，『河北新報』11 月 27 日夕刊，「運命を拒否する強い意志」『神戸新聞』11 月 28 日夕刊，「原節子さんを悼む　運命の拒否を体現」『山梨日日新聞』11 月 28 日夕刊，「原節子が表現したもの「一人でいる自由」貫く」『北国新聞』11 月 29 日夕刊，「運命への『拒否』貫く～伝説の女優・原節子を悼む」『北海道新聞』11 月 30 日夕刊，「自由貫き『伝説』に」『信濃毎日新聞』11 月 30 日夕刊，「女が一人でいる自由貫く」『京都新聞』12 月 1 日夕刊など（共同通信文化部編『追悼文大全』，2016 年，三省堂，に収録）。

(7) 書評（書評エッセイ含む）

1、大西編『現代のドイツ　―大学と研究』『中央公論』1982 年 4 月号
2、扇田昭彦編『劇的ルネッサンス』『中央公論』1983 年 10 月号
3、浅田彰『構造と力』『週刊読書人』1983 年 11 月 7 日号
4、天野郁夫『試験の社会史』『中央公論』1984 年 1 月号
5、丹下隆一『意味と解読』『週刊読書人』1984 年 6 月 25 日号
6、柄谷行人『思考のパラドックス』『中央公論』1984 年 10 月号
7、マリー・ウィン『子ども時代を失った子どもたち』『週刊読書人』1984 年 11 月 29 日号
8、イヴァン・イリイチ『ジェンダー』『図書新聞』1985 年 1 月 1 日号
9、セルジュ・モスコヴィッシ『自然と社会のエコロジー』『週刊読書人』1985 年 3 月 4 日号
10、丸山圭三郎『欲望のウロボロス』『週刊読書人』1985 年 12 月 16 日号
11、イヴァン・イリイチ『オールタナティヴズ』『信濃毎日新聞』1985 年 12 月 2 日付他（共同通信配信）
12、宮迫千鶴，三田格『ダークサイドの憂鬱』　時事通信配信『新潟日報』1986 年 4 月 28 日ほか
13、佐々木賢，松田博公『果てしのない教育？』『週刊読書人』1987 年 1 月 26 日号
14、ハロルド・ガーフィンケル『エスノメソドロジー』『週刊読書人』1987 年 6 月 29 日号
15、「『家』の匂い」（増田みず子『鬼の木』評），『波』（新潮社），1989 年 8 月号
16、「60 年代へのこだわり　―上野昂志『肉体の時代』を読む」『週刊読書人』1989 年 11 月 20 日号
17、「『知の資本論』を読む」，『新曜社総合図書目録　20 周年記念号』1990 年 2 月
18、ピエール・ブルデュー『ディスタンクシオンⅠ　II』『日本経済新聞』1990 年 7 月 1 日
19、大平健『豊かさの精神病理』『産経新聞』1990 年 7 月 12 日
20、D・ギティンス『家族をめぐる疑問』『週刊読書人』1991 年 2 月 18 日号

21、ジャン・ボードリヤール『透きとおった悪』『日本経済新聞』1991 年 3 月 10 日
22、竹内洋『立志，苦学，出世』『産経新聞』1991 年 4 月 11 日
23、津金澤聡広『宝塚戦略』1991 年 5 月 23 日夕刊
24、R・N・ベラーほか『心の習慣』『週刊読書人』1991 年 7 月 8 日号
25、浜野保樹『メディアの世紀』『産経新聞』1991 年 8 月 8 日
26、中島梓『コミュニケーション不全症候群』『北海道新聞』1991 年 9 月 8 日
27、イヴァン・イリイチ『生きる思想』『日本経済新聞』1991 年 11 月 17 日
28、「J・マコーワー著『ウッドストック』を読む」『週刊読書人』1991 年 12 月 9 日号
29、エドガール・モラン『二十世紀からの脱出』『日本経済新聞』1992 年 1 月 19 日
30、連載ブックガイド「本を読むキーワード」（1992 年 2 月 3 日から 1993 年 3 月 29 日まで）『産経新聞』隔週連載（28 回）タイトルと掲載日を記す。
1992 年
「エスニシティ」（2 月 3 日）「ユートピア」（2 月 17 日）「トポフィリア」（3 月 2 日）
「オスカー」（3 月 30 日）「ホミニゼーション」（3 月 16 日）「ドナー」（4 月 13 日）
「ノストラダムス」（4 月 27 日）「ガストロノーム」（5 月 18 日）「マラーノ」（6 月 1 日）
「コレクター」（6 月 15 日）「カタルーニャ」（6 月 29 日）「テングリ」（7 月 13 日）
「トランスモダン」（7 月 27 日）「シュタイン・ドッチ」（8 月 17 日）
「ボディー・ポリティック」（8 月 31 日）「アンネ」（9 月 14 日）「モラリスト」（9 月 28 日）
「アヴァンギャルド」（10 月 12 日）「メシア」（11 月 2 日「メタファー」（11 月 16 日）
「サバト」（12 月 7 日）「フロイロップ」（12 月 21 日）
1993 年
「フラヌール」（1 月 18 日）「ガイカリク」（2 月 1 日）「JFK」（2 月 15 日）
「アンドロジニー」（3 月 1 日）「クリエンテリズモ」（3 月 15 日）「プラクティス」（3 月 29 日）
31、龍野忠久『パリ・一九六〇』『週刊ポスト』1992 年 3 月 6 日号
32、ジャック・ドンズロ『家族に介入する社会』『SAPIO（サピオ）』1992 年 3 月 26 日号
33、「読書日録」（上）（中）（下），『週刊読書人』1992 年 8 月 10 日号，17 日号，31 日号
34、内田義彦『形の発見』『日本経済新聞』1992 年 10 月 18 日
35、「『象徴交換と死』を読む」，『ちくま』（筑摩書房）1992 年 12 月号
36、「ほんの一冊・『メディアとしての電話』」『読売新聞』1992 年 12 月 7 日
37、ジャック・デリダ『他の岬』『日本経済新聞』1993 年 4 月 11 日
38、関一敏『聖母の出現』『産経新聞』1993 年 5 月
39、上山安敏『魔女とキリスト教』『産経新聞』1993 年 7 月 6 日
40、エマニュエル・トッド『新ヨーロッパ大全　1』『現代史手帖』1993 年 5 月号

41、同『新ヨーロッパ大全　Ⅰ，Ⅱ』『東京新聞』1993 年 7 月 25 日
42、佐伯啓思『欲望と資本主義』『日本経済新聞』1993 年 8 月 29 日
43、クシシトフ・ポミアン『ヨーロッパとは何か』『日本経済新聞』1993 年 10 月 10 日
44、天野正子，桜井厚『「モノと女」の戦後史』『社会学評論』第 44 巻 2 号
45、ルイ・デュモン『個人主義論考』『週刊読書人』 1994 年 2 月 11 日号
46、「ベストセラー診断」『朝日新聞』読書欄で 2 年間担当。以下掲載日
1994 年
さくらももこ『ももこのいきもの図鑑』（4 月 24 日），浜田幸一『ハマコーの世の中間違っとる』（5 月 29 日），大前研一『平成官僚論』（6 月 26 日），後藤田正晴『政と官』（9 月 18 日），シドニー・シェルダン『天使の自立』（11 月 13 日）
1995 年
カレル・ヴァン・ウォルフレン『人間を幸福にしない日本というシステム』（1 月 29 日），宮本政於『お役所のご法度』（3 月 26 日），早坂茂三『政治家は「悪党」に限る』（5 月 21 日），大沢在昌『天使の牙』（7 月 23 日），江川紹子『「オウム真理教」追跡 2200 日』（8 月 27 日），スザンナ・タマーロ『心のおもむくままに』（10 月 22 日）
1996 年
徳大寺有恒『96 年版間違いだらけのクルマ選び』（1 月 21 日），春山茂樹『脳内革命』（3 月 10 日）
47、ロイ・ポーター『狂気の社会史』『エコノミスト』1994 年 4 月 19 日号
48、アルフィー・コーン『競争社会をこえて』『日本経済新聞』1994 年 7 月 17 日
49、アイリーン・マクドナルド『テロリストと呼ばれた女たち』
『エコノミスト』1994 年 11 月 22 日号
50、『私の好きな文庫本ベスト 5　リテレール別冊 7』（メタローグ，1994 年）
51、バーバラ・エーレンライク『中流という階級』『日本経済新聞』1995 年 3 月 12 日
52、J・ボードリヤール，M・ギョーム『世紀末の他者たち』，『産経新聞』1995 年 3 月 21 日
53、佐藤健二『流言蜚語』『日本経済新聞』1995 年 4 月 23 日
54、阿部謹也『「世間」とは何か』『日本経済新聞』1995 年 9 月 10 日
55、ベティ・フリーダン『老いの泉』（上）（下）『日本経済新聞』1995 年 11 月 5 日
56、朝日新聞書評（2 年間で書評コラム含め 53 本執筆）
1996 年
新藤謙『サザエさんの時代』（4 月 7 日）大沢在昌『雪蛍』（4 月 21 日）『味読乱読・インターネットを読む』（4 月 28 日）高橋裕子『世紀末の赤毛連盟』（5 月 12 日）今村仁司ほか『現代思想の源流』（6 月 2 日）後藤健生『ワールドカップの世紀』（6 月 9 日）

川合康『源平合戦の虚像を剝ぐ』（6 月 23 日）永井均『「子ども」のための哲学』（7 月 7 日）A・ファルジュほか『パリ 1750』（7 月 21 日）E・アニー・プルー『港湾ニュース』（8 月 4 日）

テオドール・W・アドルノ『否定弁証法』（8 月 25 日）加藤幹郎『映画ジャンル論』（9 月 8 日）『味読乱読・台湾史に残る日本の影』（9 月 22 日）中丸美繪『嬉遊曲，鳴りやまず』（9 月 29 日）真保裕一『奪取』（10 月 13 日）今村仁司『「大菩薩峠」を読む』（10 月 20 日）川本三郎『荷風と東京』（11 月 10 日）黒田日出男『歴史としての御伽草子』（11 月 24 日）J・C・ハーツ『インターネット中毒者の告白』（12 月 15 日）「今年の収穫 3 点」（12 月 22 日）

1997 年

佐々木譲『北辰群盗録』（1 月 19 日）妹尾河童『少年 H』（1 月 26 日）立田洋司『唐草文様』（2 月 9 日）白石一郎『異人館』（2 月 16 日）

イ・ヨンスク『国語という思想』（3 月 9 日）『味読乱読・荒ワザ必要な教育改革』（3 月 16 日）

プーラン・デヴィ『女盗賊プーラン』（3 月 23 日）福岡安則・金明秀『在日韓国人青年の生活と意識』（4 月 13 日）鶴見和子『女書生』（4 月 20 日）

大沢在昌『涙はふくな，凍るまで』（5 月 11 日）森嶋通夫『血にコクリコの花咲けば』（5 月 18 日）

松田道雄『安楽に死にたい』（6 月 1 日）山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』（6 月 22 日）

植田紗加栄『そして，風が走りぬけて行った』（6 月 29 日）三橋淳編著『虫を食べる人びと』（7 月 13 日）

木田元『哲学以外』（8 月 3 日）『味読乱読・殺人の背後にひそむ心理』（8 月 17 日）

徳永恂『ヴェニスのゲットーにて』（8 月 24 日）ジャン＝マリー・アポストリデス『犠牲に供された君主』（9 月 14 日）

聖吹奇『電子頭脳映画史』（9 月 28 日）イマニュエル・ウォーラースティン『アフター・リベラリズム』（10 月 12 日）

金子達仁『28 年目のハーフタイム』（10 月 26 日）ウィリアム・ギブスン『あいどる』（11 月 9 日）

ウォルフガング・ベルブシュ『光と影のドラマトゥルギー』（11 月 23 日）島田荘司『三浦和義事件』（12 月 7 日）

『今年の収穫 3 点』（12 月 21 日）

1998 年

矢作俊彦『あ・じゃ・ぱん』（1 月 11 日）草森紳一『食客風雲録』（1 月 25 日）『味読乱

読・今こそ思考のハンマーを』（2 月 1 日）平野共余子『天皇と接吻』（2 月 22 日）ジェイムズ・エルロイ『アメリカン・タブロイド』（3 月 1 日）周防正行『「Shall we ダンス？」アメリカを行く』（3 月 8 日）ジェフリー・ディーヴァ―『監禁』（3 月 29 日）

57、「『宗教なき時代を生きるために』を読む」『週刊読書人』1996 年 4 月 19 日号

58、奥武則『スキャンダルの明治』『中国新聞』1997 年 2 月 9 日ほか　共同通信配信

59、川本隆史『ロールズ』『京都新聞』1997 年 5 月 25 日ほか　共同通信配信

60、M.Foucault, Il faut défendre la société,『ふらんす』（白水社），1997 年 7 月号

61、アーヴィン・ヤーロム『ニーチェが泣くとき』『週刊文春』1998 年 4 月 23 日号

62、辻由美『カルト教団・太陽寺院事件』『週刊読書人』1998 年 6 月

63、野田正彰『戦争と罪責』『東京新聞』1998 年 9 月 6 日

64、J・ミラー『ミシェル・フーコー　―情熱と受苦』『文学界』1999 年 3 月号

65、坂上孝『近代的統治の誕生』『週刊読書人』1999 年 3 月

66、森島通夫『日本はなぜ没落するか』『日本経済新聞』1999 年 4 月 18 日

67、佐伯啓思『アダム・スミスの予言 / ケインズの予言』『日本経済新聞』1999 年 7 月 25 日

68、松原隆一郎『自由の条件』『東京新聞』1999 年 9 月 19 日

69、川本三郎『映画の昭和雑貨店・完結編』『中央公論』1999 年 12 月号

70、森真一『自己コントロールの檻』『週刊読書人』2000 年 3 月 24 日号

71、大沢在昌『無間人形』文庫版解説，光文社文庫，2000 年 5 月

72、山之内靖『日本の社会科学とヴェーバー体験』，『学燈』97 巻 6 号（丸善），2000 年 5 月

73、佐藤俊樹『不平等社会日本』『十勝毎日新聞』2000 年 7 月 15 日ほか，時事通信配信

74、「コラム（文庫の目利き）シューマッハー『スモール・イズ・ビューティフル』」『本』（講談社）2000 年 6 月号

75、オンライン・ブックストア BK1（ビーケーワン，のち honto になる）サイト（http://www.bk1.co.jp）での書評掲載（2000 年 7 月～2001 年 5 月）

書評本数 31 本。以下，書評した著作記載

川本三郎『この映画見た？』渡辺潤『アイデンティティの音楽』ジェフリー・ディーヴァ―『コフィン・ダンサー』ロブ・キーン『シグマの誓い』

フィリップ・カー『セカンド・エンジェル』荒俣宏『セクシーガールの起源』佐藤卓己編『ヒトラーの呪縛』フランス・ド・ヴァール『ヒトに最も近い人類ボノボ』ポール・ギャリコ『マチルダ』デイヴィッド・J・スカル『マッドサイエンティストの夢』

アラン・コルバンほか『レジャーの誕生』川本三郎『ロードショーが 150 円だった頃』奥武則『大衆新聞と国民国家』永井良和『尾行者の街角』J・ギルストラップ『希望への疾走』ジョン・タナー『憎悪の果実』宮崎哲弥『新世紀の美徳』

加藤幹郎『映画とは何か』千野隆司『札差市三郎の女房』カルロ・ギンズブルク『歴史・レトリック・立証』イアン・ランキン『死せる魂』ジュリエット・B・ショア『浪費するアメリカ人』堀川弘通『評伝黒澤明』クロディーヌ・ファーブル＝ヴァサス『豚の文化誌』ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』イアン・ランキン『蹲る骨』辻惟雄『遊戯する神仏たち』増島みどり『醒めない夢』
瀬川裕司『ナチ娯楽映画の世界』タキエ・スギヤマ・リブラ『近代日本の上流階級』乙川優三郎『5年の梅』

76、「（文庫の目利き）ゾンバルト『恋愛と贅沢と資本主義』」『本』（講談社）2000年10月号

77、ジュリエット・ショア『浪費するアメリカ人』
『十勝毎日新聞』2000年12月9日ほか，時事通信配信

78、「（文庫の目利き）福沢諭吉『女大学評論・新女大学』『本』（講談社）2001年2月号

79、今村仁司編訳『現代語訳・清沢満之語録』『京都新聞』2001年2月25日ほか，共同通信配信（共同通信文化部編『書評大全』2015年，三省堂，に収録）

80、藤原帰一『戦争を記憶する』『東京新聞』2001年3月18日

81、吉見俊哉・姜尚中『グローバル化の遠近法』『東京新聞』2001年4月29日

82、「（文庫の目利き）ドナルド・キーン『能・文楽・歌舞伎』『本』（講談社）2001年6月号

84、「（文庫の目利き）清水勲『ビゴーが見た日本人』」『本』（講談社）2001年10月号

85、エリック・シュローサー『ファストフードが世界を食いつくす』
『中国新聞』2001年9月2日ほか，時事通信配信

86、周防正行『「Shall we ダンス？」アメリカを行く』文庫版解説　文春文庫，2001年9月

87、橋本毅彦・栗山茂久編著『遅刻の誕生』『埼玉新聞』2001年10月7日ほか，共同通信配信（共同通信文化部編『書評大全』2015年，三省堂，に収録）

88、ヒュー・バイアス『敵国日本』『東京新聞』2001年10月21日

89、藤井淑禎『御三家歌謡映画の黄金時代』『山陽新聞』2001年12月16日ほか　共同通信配信（共同通信文化部編『書評大全』2015年，三省堂，に収録）

90、入江曜子『日本が「神の国」だった時代』『東京新聞』2002年1月27日

91、「（文庫の目利き）小野武雄『江戸の歳事風俗誌』」『本』（講談社）2002年2月号

92、武田徹『若者はなぜ「繋がり」たがるのか』『京都新聞』2002年3月3日ほか，時事通信配信

93、「ブックガイド50：原始から現代まで『ヒトの文化』を旅する50冊」
『AERA Mook 文化学がわかる』（朝日新聞社），2002年3月

94、新藤宗幸『技術官僚』『東京新聞』2002年4月21日

95、「（文庫の目利き）飛鳥井雅道『坂本龍馬』」『本』（講談社）2002 年 6 月号

96、柄本三代子『健康の語られ方』『静岡新聞』2002 年 6 月 30 日ほか，時事通信配信

97、S・ミルハウザー『マーティン・ドレスラーの夢』『埼玉新聞』2002 年 7 月 21 日ほか，共同通信配信（共同通信文化部編『書評大全』2015 年，三省堂，に収録）

98、「異性物との愛は可能なのか」，手塚治虫『鉄腕アトム』（講談社漫画文庫版）第 5 巻「解説」，講談社，2002 年 8 月

99、「読書特集・少年犯罪ノンフィクションを読む・背後に潜む家族の問題」『論座』（朝日新聞社）2002 年 10 月号

100、「（文庫の目利き）今谷明『信長と天皇』」『本』（講談社）2002 年 10 月号

101、早川洋行『流言の社会学』『静岡新聞』2002 年 11 月 10 日ほか，時事通信配信

102、「今年の収穫・私が選ぶ 3 冊」『論座』（朝日新聞社）2003 年 1 月号

103、内田隆三『国土論』『日本経済新聞』2003 年 1 月 12 日

104、ジャック・デリダ『友愛のポリティックス』『日本経済新聞』2003 年 3 月 23 日

105、デイヴィッド・T・コートライト『ドラッグは世界をいかに変えたか』，『中国新聞』2003 年 6 月 15 日，『茨城新聞』6 月 22 日ほか（時事通信配信）

106、吉見俊哉『カルチュラル・ターン，文化の政治学へ』『東京新聞』2003 年 6 月 29 日

107、作田啓一『生の欲動』『日本経済新聞』2003 年 11 月 16 日

108、エリック・シュローサー『巨大化するアメリカの地下経済』
『中国新聞』2004 年 3 月 21 日ほか，時事通信配信

109、加藤秀一『「恋愛結婚」は何をもたらしたか』『福井新聞』2004 年 9 月 5 日付け，『陸奥新報』9 月 6 日付け，『中国新聞』9 月 12 日『茨城新聞』9 月 12 日付けほか，時事通信配信

110、吉見俊哉『万博幻想　―戦後政治の呪縛』『中国新聞』2005 年 4 月 3 日付，『徳島新聞』4 月 8 日付ほか，時事通信配信

111、「今がわかる名著　今月のテーマ・老い」（上）（中）（下）『東京新聞』2005 年 9 月 11 日，18 日，25 日付

112、三浦　展『下流社会』，『福井新聞』2005 年 10 月 2 日付，『京都新聞』『茨城新聞』10 月 9 日付ほか，時事通信配信

113、イバン・イリイチ『生きる意味』，『日本経済新聞』2005 年 11 月 6 日付

114、「私の 3 冊」，『東京新聞』2005 年 12 月 25 日付

115、鶴見俊輔・齋藤慎爾編『サザエさんの〈昭和〉』，『高知新聞』『南日本新聞』
『北国新聞』2006 年 8 月 27 日，『河北新報』『京都新聞』『神奈川新聞』『熊本日日新聞』9 月 3 日，『埼玉新聞』『岐阜新聞』9 月 10 日，『中国新聞』9 月 17 日ほか（共同通信文化部編『書評大全』2015 年，三省堂，に収録）

116、生井英考『空の帝国　アメリカの20世紀』,『高知新聞』『秋田さきがけ』2006年12月24日,『京都新聞』『神奈川新聞』『中国新聞』2007年1月7日付ほか（共同通信文化部編『書評大全』2015年，三省堂，に収録）

117、ヤエル・タミール『リベラルなナショナリズムとは』『東京新聞』『中日新聞』2007年3月4日付

118、ジャック・デリダ『哲学の余白（上)』,『日本経済新聞』2007年3月18日付

119、岩本茂樹『憧れのブロンディ』,『沖縄タイムス』2007年6月2日付,『埼玉新聞』『山形新聞』『山梨日日新聞』6月3日付ほか（共同通信配信）（共同通信文化部編『書評大全』2015年，三省堂，に収録）

120、ポール・リクール『正義をこえて』『日本経済新聞』2007年7月22日付

121、「本の虫日記」,『論座』（朝日新聞社）2008年1月号，2007年12月

122、ジャン・ボードリヤール『悪の知性』「日本経済新聞」2008年4月6日付

123、有馬哲夫『アレン・ダレス　―原爆・天皇制・終戦をめぐる暗闘』『東京新聞』2009年8月30日付

124、ベネディクト・アンダーソン『ヤシガラ椀の外へ』『日本経済新聞』2009年9月27日

125、「私の三冊」『東京新聞』2009年12月27日

126、中山　元『フーコー　生権力と統治性』『図書新聞』2010年6月19日号（2970号）

127、フランソワ・キュセ『フレンチ・セオリー　―アメリカにおけるフランス現代思想』,『図書新聞』2011年2月19日号（3002号）

128、ユルゲン・ハーバーマス『ああ，ヨーロッパ』『東京新聞』2011年2月13日付

129、西川長夫『パリ5月革命私論　―転換点としての68年』『日本経済新聞』2011年9月11日付

130、重田園江『連帯の哲学Ⅰ　―フランス社会連帯主義』,『社会思想史研究（社会思想史学会年報)』第35号，藤原書店，2011年9月

131、國分功一郎『暇と退屈の倫理学』,『日本経済新聞』2011年11月20日付

132、アントワーヌ・コンパニョン『アンチモダン―反近代の精神史』,『日本経済新聞』2012年7月22日付

133、國分功一郎『ドゥルーズの哲学原理』,『日本経済新聞』2013年7月28日付